

県産スギのパネルで住宅

住む楽しさも配慮

前橋工科大
石川助教授



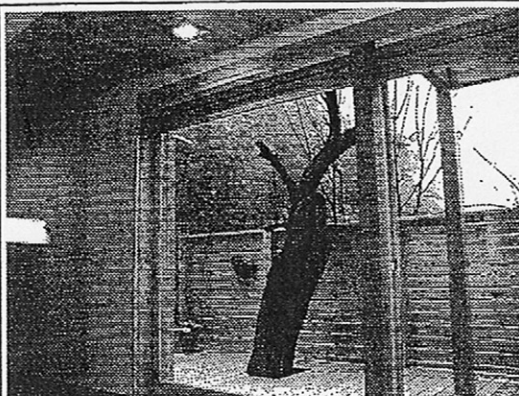
石川助教授

前橋工科大学の石川恒夫助教授と、同教授が代表を務めるベンチャー企業「バイオ・ハウス・ジャパン」はこのほど、独自開発したBSパネル構造の住宅を伊勢崎市市場町に完成させた。同パネルにより2階建て住宅は初め

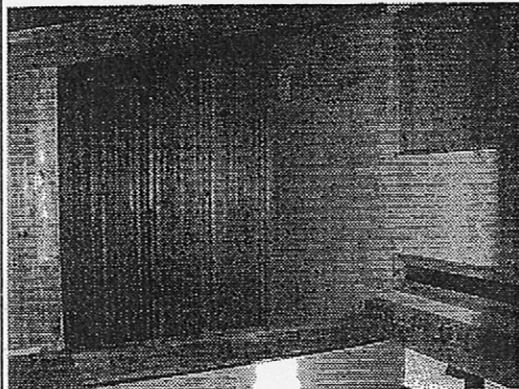
取り組み。住む楽しさをさる。
引き出す空間設計にも力を入れた。環境と人間の双方に配慮した住宅として普及を図る。
BSパネルは小幅の板材を釘打ちして造った集積パネルで、9-12mmの厚みを持つ。壁や天井にそのまま使え、調湿性、断熱性、蓄熱性など木の長所を最大限生かせる。接着剤を使わないため人体にやさしく、リサイクルも容易。プレカット加工により工程を省力化する。

同助教授は県産材の振興も目的に、下仁田産スギのBSパネルで01年、高崎市内の小児科医院を建築。その後埼玉、長野で2棟を手掛けた。2階建ては初めてで、一般住宅への広がりも期待できる成果となった。
今回の住宅の延べ床面積は112平方メートル。建物の外周をBSパネルで囲み、従来にない6mmの長さのパネルも製作して用いた。またバウビオロギー（建築生物学・生態学）の考え方に基づき、心地よい空間づくりに力を注いだ。

庭先のウメの古木や、隣接する竹林の眺めを生かす工夫を凝らし、曲面の天井や、温かみのある色で木材の一部を着色したことなどがその例。簡単な手入れで済む屋上緑化も取り入れた。製材は小井土製材（下仁田町）、施工は林藤ハウジング（前橋市）。施工夫妻は「体にいいだけでなく光や色、香りを楽しめる家。これから子どもを育てるには最高」と喜んでいた。



ウメの古木を生かした空間づくり



2階まで伸びる長尺のBSパネル

石川助教授はこうした住まいのあり方を広げようと今年、「日本バウビオロギー研究会」を設立、会長に就任した。昨年急逝した「ひと・環境計画」主宰高橋元さんと共に活動してきた日本バウビオロギー協会を発展させた組織。「住宅は人間の尊厳を守るもの。国産材の

振興にもつなげたい」と同助教授は話し、関心のある人の参加を募っている。連絡先は石川研究室
☎ FAX 027-265-7345。